

ショートコメント vol.405 (2026年6月9日)

テーマ：ナフサ不足で在庫が急減する塗料関連

～在庫の変化量は過去のウッドショックや半導体不足に匹敵～

●ナフサ不足による塗料の在庫急減

中東情勢による様々な影響がみられる中、大きな懸念材料の一つがナフサ等の石油関連製品の不足であろう。政府は年内の必要分を確保済みとの姿勢であるが、企業の間からはすでに不足に関する声が上がっている。

特にナフサ不足の影響により、それを元に生産される塗料関連の不足が指摘されており、例えばカルビーからは商品のパッケージを白黒の2色印刷に変えるとの方針が示された。

こうした動きは統計面でも確認できる。直近4月の鉱工業生産指数では、塗料に関しては、「出荷量が生産量を上回る動き」のほか、「在庫が大きく減少する動き」の2点がみられる(図表1)。

「出荷量が生産量を上回る動き」とは、企業が生産した以上に出荷が行われたことを示す。つまり、増えたオーダーに対応するために、工場での生産に加えて、在庫分を出荷することで対応したことを意味する。その結果として、手元の「在庫の大幅な減少」につながっている。もちろんこうした在庫を取り崩しての対応は長く続けられない。

●化学肥料やプラスチックの動き

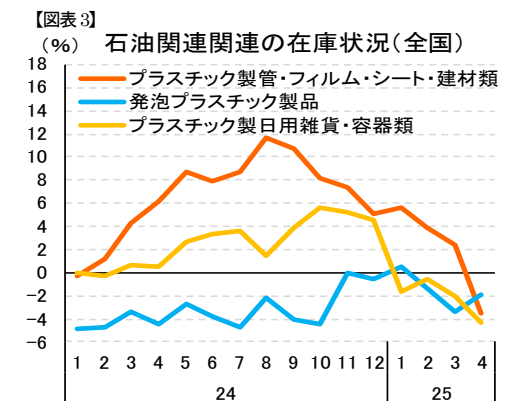
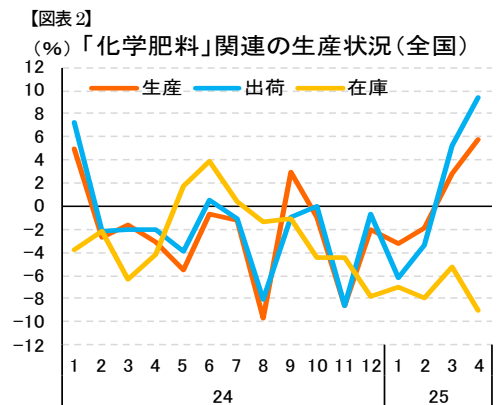
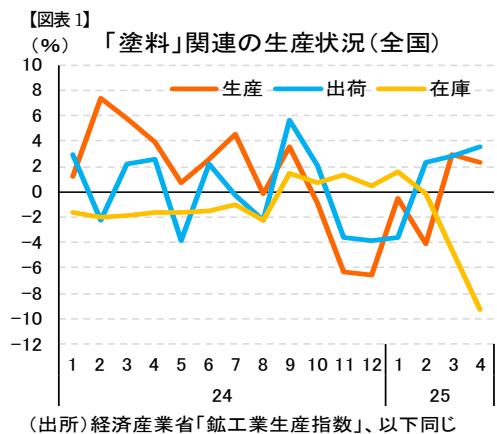
4月の鉱工業生産において、塗料に似た動きがみられる品目としては、化学肥料などが挙げられる(図表2)。化学肥料については、今後農作物の生育にも悪影響が大きいことから、供給不足による多方面への影響が懸念されよう。

もちろん塗料や化学肥料については、国内生産だけで対応されているわけではなく、輸入による調達も行われている。ただ、海外でもナフサが不足している状況は同じであり、輸入品の確保も困難となる可能性が非常に高い。

塗料や化学肥料に加え、足元で品不足への懸念が広がっているプラスチックやフィルム類についても、極端な在庫の減少はみられないものの、決して楽観はできない(図表3)。現状の影響としてはコストアップが中心としても、今後は品不足に陥る懸念も少なくないとみられる。

●過去のショック時との比較

足元の塗料の在庫減少の動きは、過去の事例でいえば、コ



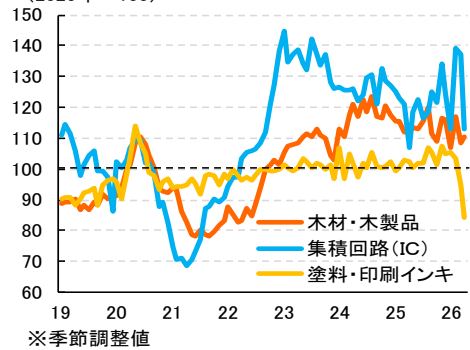
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

コロナ後に発生した 21 年の「ウッドショック」や 20～21 年の「半導体不足」に匹敵する状況にあるとみられる（図表 4）。

今後も中東情勢の混乱が続き、ナフサ等の調達が進まなければ、こうした状況はさらに深刻化するとともに、化学肥料やプラスチック、ビニール類などにも同様の動きが広がらざるを得ない。

今後のナフサの調達については、日本全体としての総量の確保も重要であるが、各業界や企業レベルでの調達状況にも十分な目配りが必要であるとみられる。特に、サプライチェーンのボトルネックが生じることのないよう、その解消に注力することが求められる中、今後の政府の対応が注目されよう。

【図表 4】
過去のショックと塗料の在庫状況の比較
(2020年=100)



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。